

矢部川学識者懇談会

矢部川総合水系環境整備事業

計画段階評価(案)

昭和30年頃の船小屋地区



堤防沿いの桜並木や河川敷では花見客が遠くは肥前・肥後などからも訪れた



初夏は川沿いにホテルが乱舞し、夏は川遊び・水浴場として、多くの人々で賑わっていた

平成30年10月9日

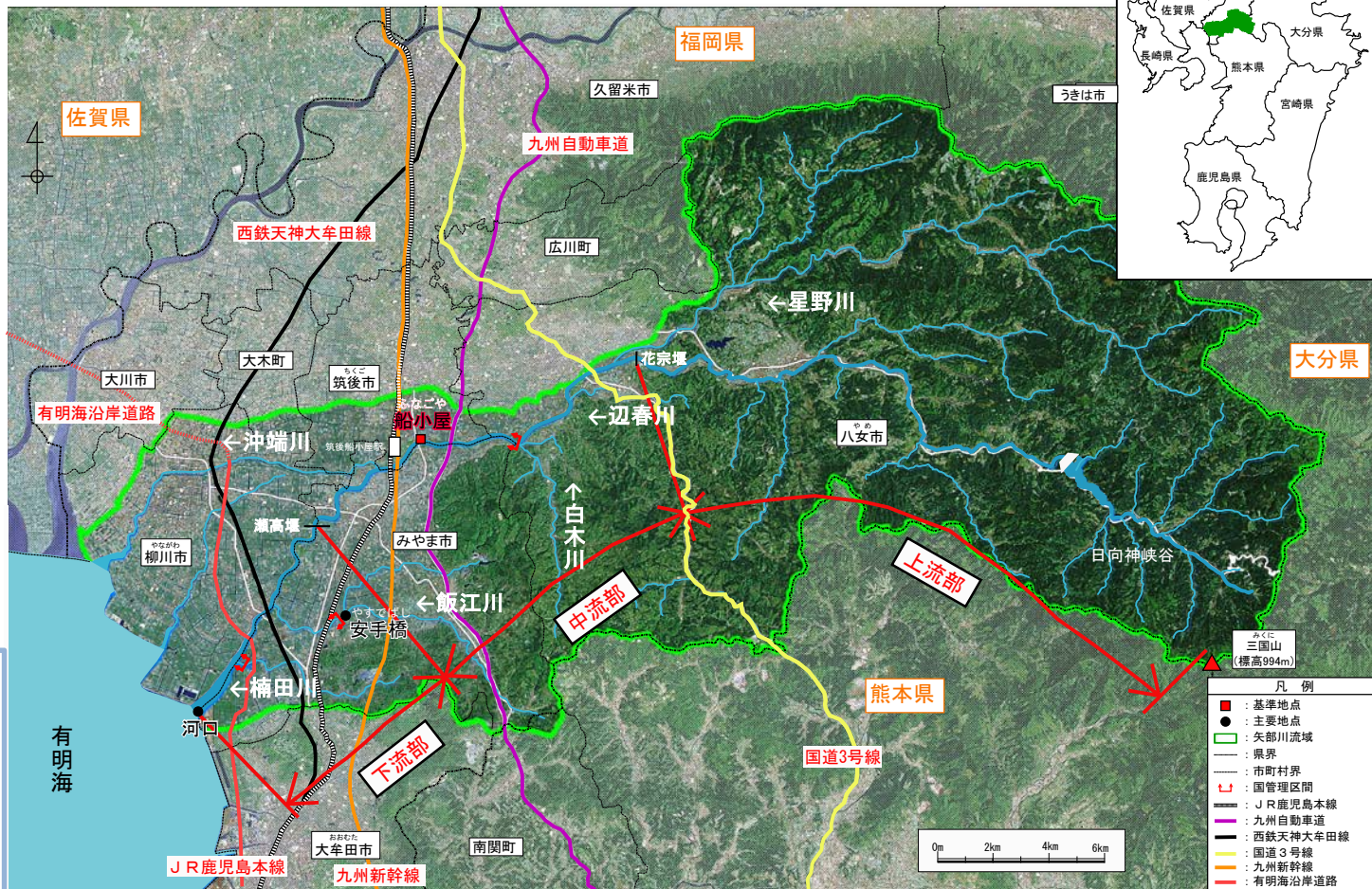
国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所

矢部川環境整備【計画段階評価】

1. 流域及び河川の概要

(1)流域の概要

矢部川は、その源を福岡、大分、熊本の3県にまたがる三国山（標高994m）に発し、日向神峡谷を流下し、中流部において支川星野川、さらに辺春川、白木川等を合わせながら筑後平野を貫流し、途中沖端川を分派して、下流部で飯江川、楠田川と合流し有明海に注ぐ、幹川流路延長61km、流域面積647km²の一級河川である。



下流部 【河口～瀬高堰】

平野や田園地帯を緩やかに蛇行しながら有明海へと注ぎ、国内最大の干満差による影響を受け、汽水域や河口に干潟・ヨシ群落が形成されている。



中流部 【瀬高堰～花宗堰】

扇状地に広がる田園・市街地を貫流し、川床は礫・砂で形成され川幅は変化に富み、アユやホタルも見られる。



上流部 【花宗堰～源流】

急峻な山地となっており、川床は礫・大礫で形成され、河畔林と瀬・淵が連続する美しい渓流環境である。



矢部川環境整備【計画段階評価】

流域及び氾濫域の諸元

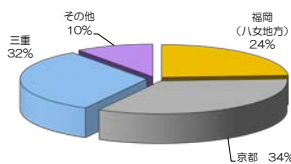
流域面積(集水面積) : 647km²
 幹川流路延長 : 61km
 流域内人口 : 約16万人
 想定氾濫区域面積 : 124.8km²
 想定氾濫区域内人口 : 約10.6万人
 想定氾濫区域内資産額 : 約1兆9,000億円
 主な市町村 : 筑後市、柳川市、みやま市、八女市等

産業

矢部川流域内の主幹産業は、農業を中心とする1次産業で、矢部川上流では、木材・茶・みかん・酒が、また、有明海沿岸ではノリ養殖が盛んである。
 特に、「玉露茶」は全国生産量の約1/4を占める。

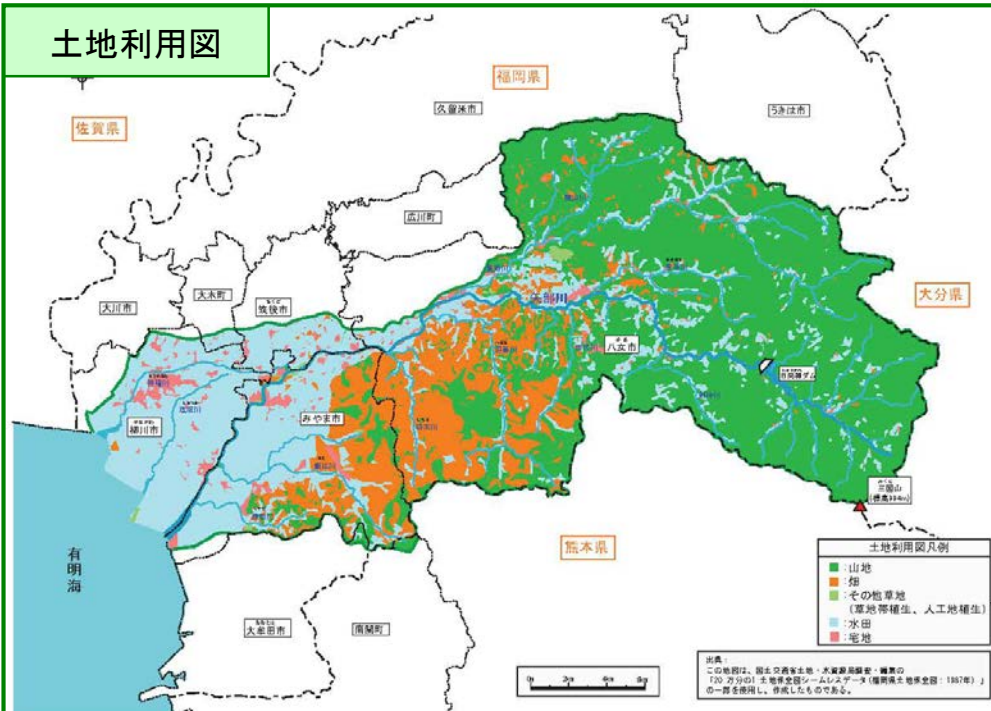


八女茶の栽培風景



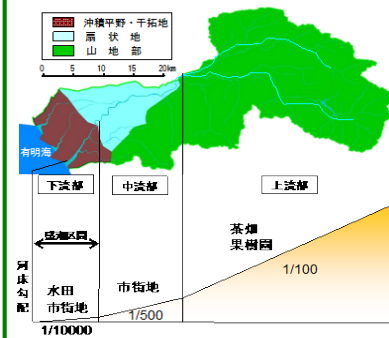
玉露茶の生産量

土地利用図



地形の特性

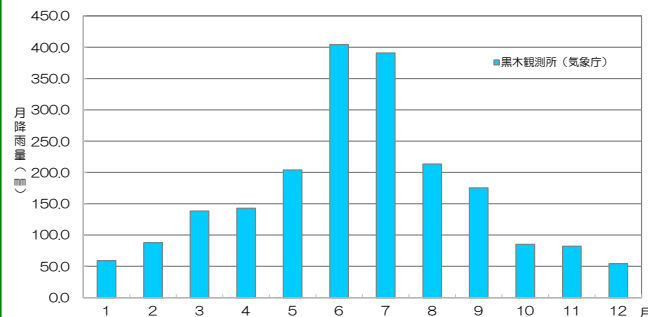
河床勾配は、上・中流部は約1/100～1/500となっており、下流部は約1/10,000と緩勾配になっている。



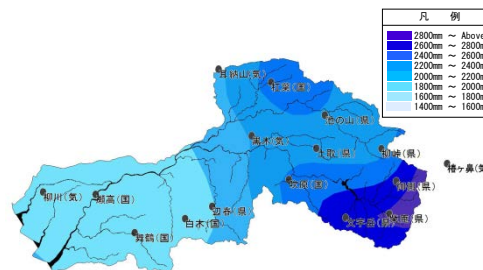
矢部川地形模式図

降雨特性

流域の気候は、上流部が山地型、中下流部が内陸型気候区に属し、平均年降水量は約2,500mmで、その約4割が6月から7月にかけての梅雨期に集中し、台風の発生期と合わせた6月から9月の4ヶ月間の降雨量は年降水量の約6割を占める。流域の降雨分布を見ると、上流域が多雨地帯となっており、年降水量は2,000mm～3,000mmに達する。



主要地点の月別降水量



平成20年～平成24年の5年間の平均値
 流域平均年降水量の分布(単位:mm/年)

矢部川環境整備【計画段階評価】

(2)河川空間の利活用状況

- ・矢部川直轄区間の年間利用者総数は約22万人(平成26年度「河川水辺の国勢調査」推計値)であり、多くが散策、釣り、水遊び等で利用されている。
- ・上流部はキャンプや釣り、自然散策等に利用されている。また、点在する取水堰及びその周辺では子供たちが川遊びや水遊びをする姿が多く見られている。国の天然記念物「黒木のフジ」(写真①)や、日向神峡の景勝地(写真②)を目当てに多くの観光客が訪れる。
- ・船小屋地区は、クスノキ林(国指定天然記念物)がある中ノ島公園(写真③)や船小屋温泉(写真④)があり、かつては水浴場等にてぎわっていた。近年は、福岡県最大規模の広さを誇る「福岡県営筑後広域公園」(写真⑤)の整備が進められすでに一部区域では供用を開始し多くの人々がスポーツ、散策を楽しんでおり、九州新幹線の「筑後船小屋駅」(写真⑥)が存在とあわせ、公園整備の進捗とともに河川利用の増加の可能性がある。
- ・下流部は、水郷として有名な柳川市が位置し、旧柳川城の内堀、外堀が今でも水路(掘割)として残っており、市民の憩いの場としてだけでなく、川下り(写真⑦)のできる観光地として全国から多くの観光客が訪れている。
- ・河口部はノリ養殖漁業の拠点として発展した中島漁港(写真⑧)が存在し、河川沿いは、散策等に利用されている。



＜柳川川下り＞

水郷の魅力を存分に満喫しながら水路を小舟に乗って迎える川下り。



＜中ノ島公園＞



＜船小屋温泉＞



＜福岡県営筑後広域公園＞

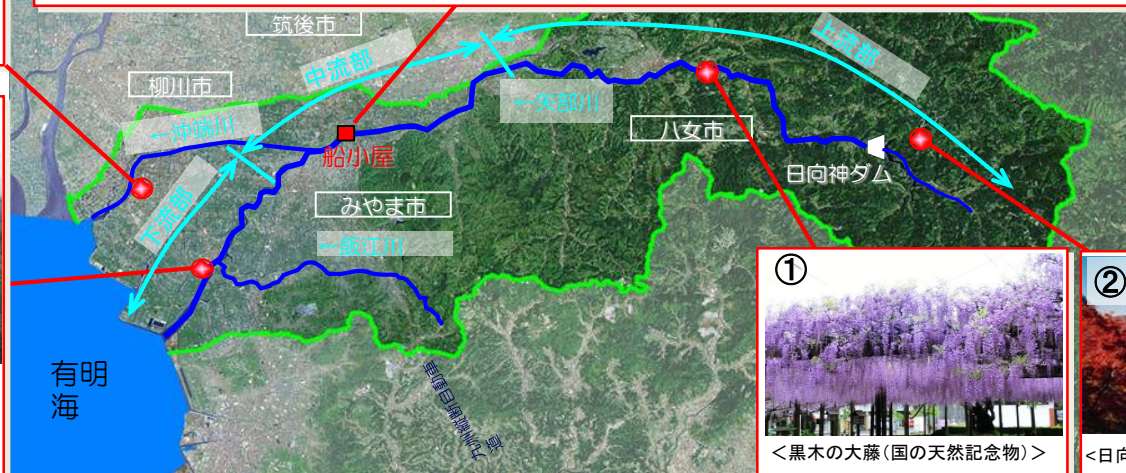


＜筑後船小屋駅＞



＜中島漁港＞

有明海沿岸のノリ養殖漁業の拠点地として発展した漁港。



＜黒木のフジ(国の天然記念物)＞

樹齢600年以上と言われている。4月中旬から開花し、約20万人もの人が訪れる。



＜日向神峡＞

矢部川上流の日向神ダムの湖畔にあり、岩山に映える紅葉が見られる。

矢部川環境整備【計画段階評価】

(3)歴史・自然環境(直轄区間)

- ・矢部川の水利用は、古くから日本有数の穀倉地帯である筑後平野の農業用水や発電用水に幅広く利用され、筑後地方における産業活動の礎になっている。
- ・かつて、^{たじりそうま}田尻惣馬(柳川藩土木技師)らの手により^{せんげんどい}堤防(千間土居)の整備と併せて水害防備林として植栽されたクスノキ林が「新舟小屋のクスノキ林」(国指定天然記念物)として残されているほか、矢部川をはさんでそれぞれの領土を守るために玉石を積み固めた突堤(水刼)が現存している。
- ・上流部の環境は、河床は主に礫・砂で河原が形成され、瀬淵が連続する区間と堰による湛水区間に区別され、瀬はアユ等の貴重な産卵場や、河岸にはヨシやツルヨシ群落が分布する水際には、タナゴ類等の生息場となっている。
- ・下流部の環境は、沖積平野や干拓地に広がった田園地帯を緩やかに蛇行し、有明海特有の汽水環境を有するとともに、河口付近では干潟を形成し、有明海流入河川特有のエツや、干潟にはムツゴロウ等が生息している。



千間土居(柳河藩が矢部川に築いた堤防と水防林:1695完成)



水刼



新舟小屋のクスノキ林



ニッポンバラタナゴ(環境省絶滅危惧Ⅰ類)



エツ(有明海汽水域特有の魚類、環境省別滅危惧Ⅱ類)



ムツゴロウ(有明海干潟特有の魚類)

矢部川環境整備【計画段階評価】

(2) 矢部川上流部の状況

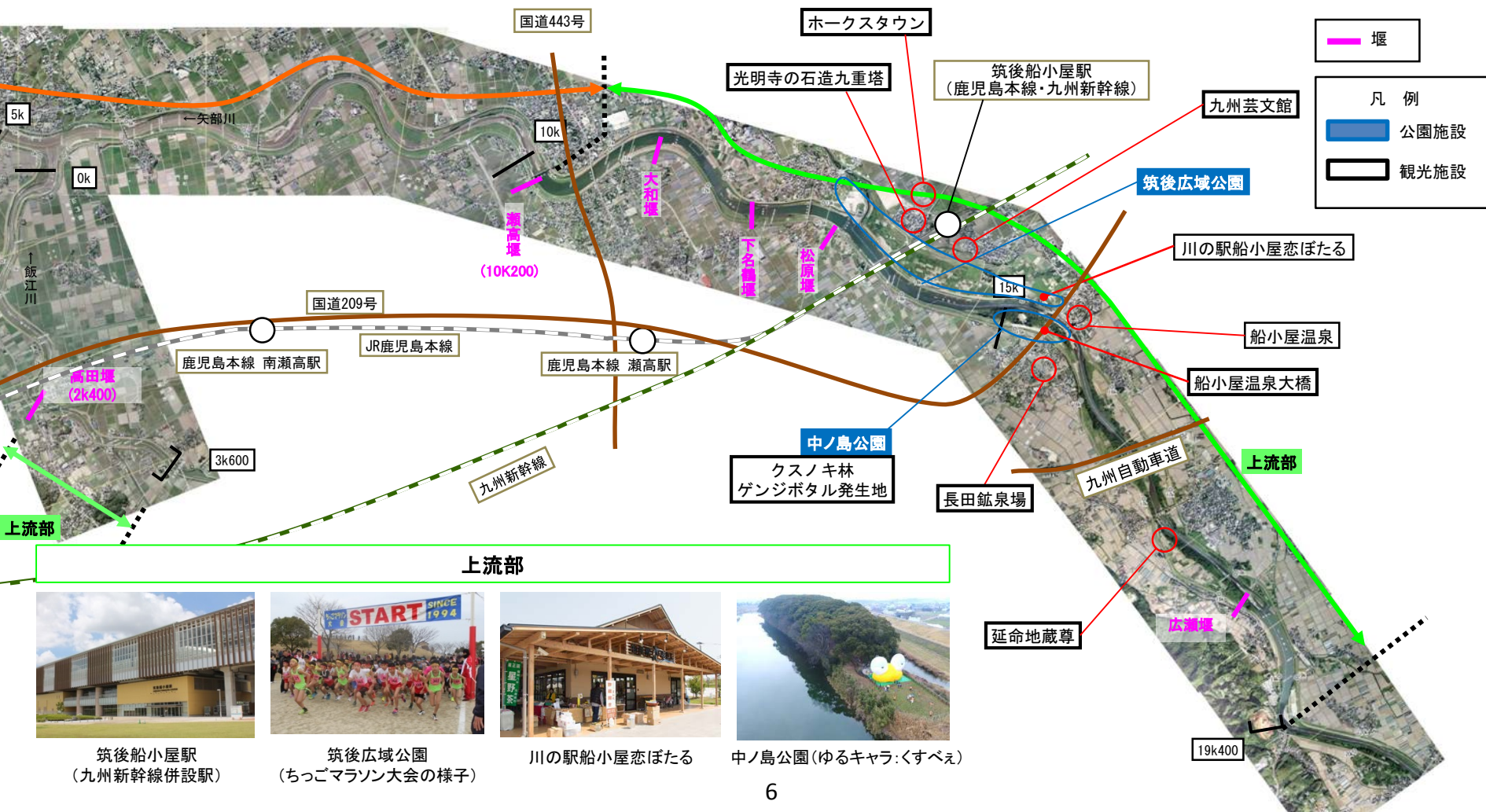
【瀬高堰～管理区間】

- ・上流部の船小屋地区では、矢部川沿いに船小屋温泉や中ノ島公園のほか、近年整備された筑後広域公園、川の駅など、堤内には魅力ある施設が集中し、各施設で賑わいを見せている。
- ・また、かつて多くの利用客で賑わいを見せた中ノ島公園では、自治体や地域住民が連携して放水路を活用したイベント開催など賑わい復活を目指す取り組みが行われている。

【主な関連施設】 船小屋温泉、長田鉱泉場、中ノ島公園、筑後広域公園、川の駅 船小屋恋ぼたる

【アクセス性】＜道路＞ 九州自動車道 八女IC 4,000m

＜鉄道＞ JR九州新幹線 鹿児島本線 筑後船小屋駅 500m



矢部川環境整備【計画段階評価】

(3) 対象とする区間の検討

	下流部 【河口～瀬高堰】	上流部 【瀬高堰～管理区間】
沿川市町の取組	沿川市町において、矢部川を活用したまちづくりの取り組みは行われていない。	みやま市・筑後市において、船小屋地区を中心として、水辺を活用したまちづくりが進められている。 ・社会実験の実施、ホテルの誘致(みやま市)
河川・沿川の利用状況	下流部は、ノリ養殖漁業の拠点地として発展した漁港が存在しており、生活の場として散策等に利用されている。 柳川市では、掘割・クリークを利用し、川下りができる観光地として全国から多くの観光客が訪れる。しかしながら、前記観光地から距離がある矢部川周辺には、観光客の流入は少ない。 【主な関連資源】 ・中島漁港 ・水路(掘割)	上流部の船小屋地区では、矢部川沿いに温泉街や中ノ島公園のほか、近年整備された筑後広域公園、川の駅など、堤内には魅力ある施設が集中し、各施設で賑わいを見せている。 また、かつて多くの利用客で賑わいを見せた中ノ島公園では、自治体や地域住民が連携して放水路を活用したイベント開催など賑わい復活を目指す取り組みが行われている。 【主な関連資源】 ・船小屋温泉・長田鉱泉場 ・中ノ島公園 ・筑後広域公園 ・川の駅 船小屋恋ぼたる ・船小屋ゲンジボタルの発生地・クスノキ林(天然記念物)
アクセス性	<道路> ・有明沿岸道路 高田IC 1,900m <鉄道> ・西鉄大牟田線 中島駅 200m ※距離は矢部川からの直線距離	<道路> ・九州自動車道 八女IC 4,000m <鉄道> ・JR九州新幹線・鹿児島本線 筑後船小屋駅 500m ※距離は矢部川からの直線距離
対象	検討対象としない	○ 検討対象とする

- ・矢部川下流部は、感潮区間にあたるため有明海特有のガタ土の影響を受けやすいため、河川の利用が難しい。
- ・矢部川の上流部では、周辺土地利用が大きく変わり、集客力ある施設が整備され、賑わいを見せているところであり、特に九州新幹線の開通や筑後広域公園等が隣接する区間である船小屋地区周辺は、矢部川の活用が期待されている。
- ・中ノ島公園は、船小屋ゲンジボタル発生地の一部であり、船小屋温泉街に近接し、昔は水浴場に利用され、賑わいの中心であった。
- ・中ノ島公園や矢部川放水路を中心にかつての賑わいを復活させる活動が活発に行われており、矢部川をはさむ両自治体においては「かわまちづくり協議会」を中心に、水辺利用の促進に向けて地域の熱意が高まっていることから、矢部川上流部に焦点を当てて評価を実施する。

矢部川環境整備【計画段階評価】

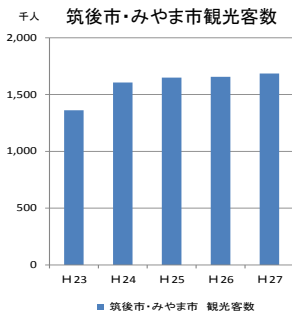
(4) 矢部川船小屋地区における取組概要

- 船小屋地区においては、昭和30年頃までは川沿いにホテルが乱舞し、年間を通じて多くの人々が集い、賑わっていた中ノ島公園周辺の水辺の賑わいを取り戻すべく、「矢部川船小屋地区かわまちづくり協議会」を中心に「かわまちづくり」計画の策定が進められている
- 当該地区は、筑後市とみやま市の市境に位置しており、JR九州新幹線・鹿児島本線 筑後船小屋駅に近接している。
- 筑後市のマスタープランでは、船小屋温泉郷を観光拠点として位置づけ、県南地域の広域交流拠点として一体的な整備を図ることとしている。
- みやま市のマスタープランでは、矢部川などの自然景観を市民との協働で保全しながら整備を行うこととしている。
- 近年、当該地区周辺において整備中の県営筑後広域公園や九州新幹線新船小屋駅の開業や川の駅恋ぼたる(物産館)のオープンなど観光振興の気運が高まりを見せている。
- 中ノ島公園では、放水路を活用した社会実験(ウォークラリーイベント)を開催するなど筑後市・みやま市や地域住民が連携して賑わい復活を目指す取組みが行われており、今年も河川空間を活用した社会実験が実施された。
- 中ノ島公園の賑わいを通して地域活性化を目指す両市の熱意も強く、当該地区周辺の年間を通じた観光拠点としての整備等が急がれる。

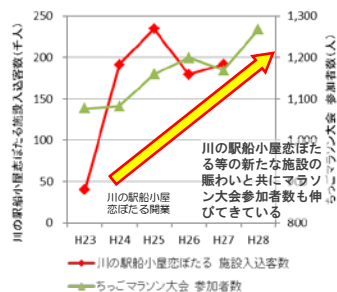
昭和30年頃の船小屋地区



昭和30年頃までは川沿いにホテルが乱舞し、年間を通じて多くの人々が集い、賑わっていた



船小屋地区周辺における入込客数の推移



筑後広域公園

日常利用のほか、マラソン大会や花火大会等の様々なイベントが開催されており、年間約20万人の利用者で賑わう



↑船小屋温泉
ホテル・若楠まつり

新たにオープンした
足湯を利用する
観光客→

船小屋温泉郷

江戸末期から温泉郷として200年の歴史ある温泉。全国的に珍しい炭酸泉で湯治の効能も高く、近年は足湯を無料開放し多くの観光客に利用されている



川の駅船小屋恋ぼたる

物産館・温泉館のほか、中央の広場を利用したコンサート等の様々なイベントが開催されており、年間約17万人利用で賑わう

【社会実験】



中ノ島公園ウォークラリー
(H30.1社会実験)

みやま市が中心となって矢部川放水路を利用したウォークラリーイベント等の社会実験には定員100名を超える140名の参加者が集まった。



川遊び(H30.9社会実験)

筑後市・みやま市合同で、川遊び、SUP、飲食店、コンサート等を実施し、賑わいを取り戻すきっかけづくりの実験。700名規模を想定していたが、予想を大きく超え3千名規模の集客となった。

矢部川環境整備【計画段階評価】(現地の状況)

(5) 課題と原因

【課題】

- 豊かな自然を有し、かつて水浴場として賑わった矢部川の河川敷や中ノ島公園周辺は、周辺施設と分断されており、地域一体となった地域の賑わいに寄与できていない。

【原因】

- 筑後船小屋駅・筑後広域公園などの新たに整備された施設と矢部川との導線が分断されており、矢部川の水辺へのアクセス性が良くない。
- 矢部川の水辺と周辺施設との連動した利活用空間が形成できていない。

船小屋地区の課題



現在は、周辺施設からのアクセスが良くないため、利用者が減少しており、夏場でも利用が減少している。



かつて水浴場として多くの人々で賑わった中ノ島公園の河川敷には、夏場も人が少なく矢部川の豊かな自然環境が活かしていない。

課題の原因

船小屋地区左岸側(矢部川放水路の状況)



中ノ島公園への導線上にある矢部川放水路は、草が茂り、公園来訪者の安全な通行を妨げている

船小屋地区右岸側(川表堤防の状況)



筑後広域公園側の矢部川堤防から水際までは高低差があり、かつ、水際に下りる階段等が少ないため、広域公園側から矢部川へ利用者を呼び込めていない

船小屋地区右岸側(筑後広域公園側の状況)



恋ぼたる～公園の宿間には、急な堤防が矢部川へのアクセスを妨げ、利活用できる空間になっていない。

船小屋地区右岸側(水際の状況)



階段から先の水際には草木が茂り、水際への安全なアクセスや水に触れることが困難な状況であり、隣接する宿泊施設利用者が矢部川に振れる機会がない

矢部川環境整備【計画段階評価】

船小屋地区の周辺環境・状況変化を踏まえ、平成23年度に登録された「船小屋地区かわまちづくり計画」をより効果的なものにし、「かわ」と「まち」を活性化するために、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤等の「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、福岡県、筑後市・みやま市、地域住民等と河川管理者が連携し、水辺の整備・利用に係る取組みを支援する。

① 筑後船小屋駅・広域公園 新たな施設との連携

⇒現状で分断されている新たな施設との移動導線の確保

◆地域住民からの意見・情報

- ・広域公園や矢部川を利用して移動円滑化できないか。(筑後青年会議所)
- ・中ノ島公園や地域の活動と筑後船小屋駅とつなげて周辺への集客に寄与したい。(山門青年会議所)



筑後船小屋駅(九州新幹線併設駅)は、地域の玄関として、矢部川や中ノ島公園との連携が期待される。



「川の駅 船小屋恋ぼたる」には多くの来訪者が訪れるが、隣接する矢部川には人の流入が少ない

② 船小屋温泉郷の賑わいに向けた取り組みを実施

⇒川沿いに連なる宿泊施設の復活

◆地域住民からの意見・情報

- ・昭和30年代には多くの観光客で賑わっていた。(みやま市商工会)
- ・船小屋地区の魅力に着目し、地域振興の活動を行っていく必要がある。(船小屋鉱泉保存会)



矢部川沿いに連なる船小屋温泉郷
写真中央の沈下橋は橋脚だけが残る。船小屋温泉と長田鉱泉を結ぶ重要な動線で、地元からは復活の要望の声が多い。



矢部川を挟み、船小屋鉱泉(右岸)と長田鉱泉(左岸)が連携し、足湯めぐりスタンプラリーを実施。また鉱泉水を使ったジュースなどを開発・販売している。



③ かつての賑わいを取り戻す「中ノ島公園の復活」

⇒ハード・ソフトにより、昭和30年頃の賑わいを取り戻す

◆地域住民からの意見・情報

- ・中ノ島公園は、昔は多くの来訪者で賑わっていたが、近年は来訪者が減少した。長田鉱泉の保存と併せて矢部川の賑わいを取り戻したい。(長田地域振興会)
- ・40年くらい昔は船小屋地区の中ノ島公園に茶店があった。カフェ等時代にあった復活を推進したい。(みやま市観光協会)



昭和30年頃までは、年間を通じて多くの人々が集い、賑わっていた。(目標とする姿)



現在は利用者が減少しており、夏場でも利用者が少ない。

矢部川環境整備【計画段階評価】(目標設定)

3. 政策目標、具体的な達成目標の設定

(1)政策目標

- ・人と河川の豊かなふれあいの場を確保するため、水遊びや釣り、散策や各種スポーツイベント等市民や観光客の憩いの場としてのニーズや周辺状況の変化を踏まえ、関係機関及び地域住民等と連携し、安全性及び利便性に配慮した河川整備を目指す。

(2)具体的な達成目標

- ①筑後船小屋駅・広域公園等の新たな施設とによる移動導線の確保により中ノ島公園との交流人口を増やす。
- ②船小屋温泉郷の賑わいに向けた取り組みを実施する。
- ③船小屋地区の中ノ島公園においては、最終的に昭和30年頃の賑わいを取り戻す。

船小屋地区の取り組みを通じて、④「第2次筑後市観光推進プラン(H29～H33)」では年間観光入込客数を平成27年の101.9万人から概ね五年で130.0万人に増加(約128%)、「みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27～31)」では年間観光入込客数を平成25年の53.3万人から概ね五年で69万人に増加(約125%)を目標としている。船小屋地区が筑後市・みやま市の目標に寄与できるよう、目標と同程度の利用者伸び率を目標とする。

(3)整備に向けた取り組み

- ・河川管理者の支援は基盤整備、占用許可準則の緩和等。みやま市は、中ノ島公園の賑わいを復活させるために、矢部川放水路の河川敷地占用管理、船小屋地区近隣への宿泊施設誘致を計画。みやま市・筑後市ではガタガタ橋(沈下橋:平成24年九州北部豪雨で流出)の復旧・管理に向けた実施方策を主体的に検討、河川管理者は検討を支援。
- ・船小屋地区の新たな魅力の再発見・創出に向け、さまざまな取り組みを展開中。「矢部川くすべプロジェクト実行委員会(両市青年会議所連携)」では、矢部川を活かした具体的な地域活性化の取り組みを推進。みやま市では、矢部川放水路と中ノ島公園を活用したウォークラリー等の社会実験を実施。H30.9には筑後市・みやま市合同で、水辺に賑わいを取り戻す「川遊び」社会実験を実施。

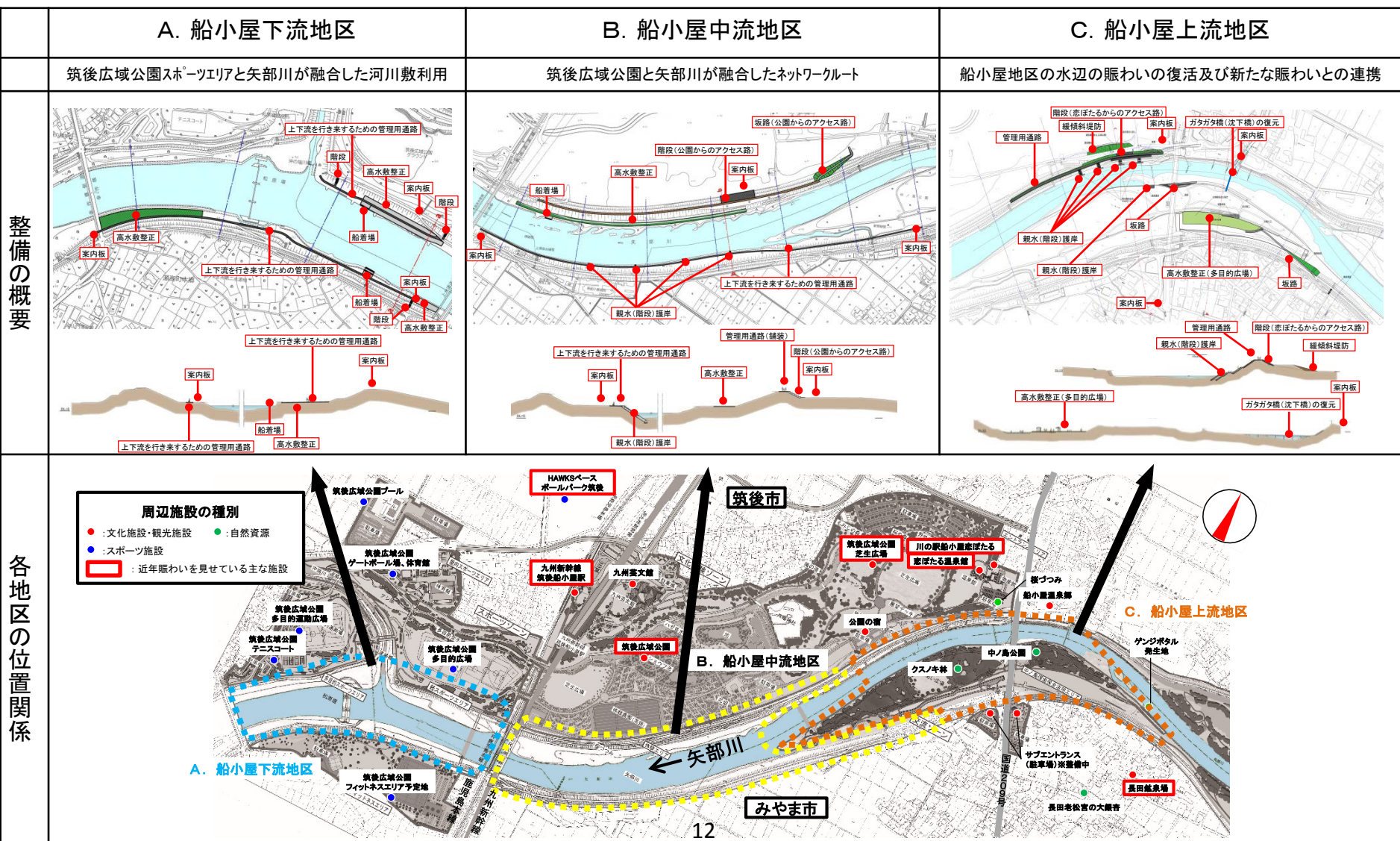
(4)期待される効果

- ・中ノ島公園がかつての賑わいを取り戻すことにより、当該地区において、安全で利便性の高い地域の水辺体験・活動の場として定着することが期待される。
- ・中ノ島公園の賑わいの復活は、船小屋地区全体の観光振興に波及し、船小屋温泉等の宿泊施設も活用されることで当該地区の滞在期間が長くなり、地元経済の活性化への効果が期待される。
- ・隣接する筑後広域公園と矢部川との融合を図ることにより、中ノ島公園利用者に新たな利用価値を提供することができる。

矢部川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価

・船小屋周辺での環境整備の検討にあたり、当該エリアの課題を解消するための対策案として、A. 船小屋下流地区（筑後広域公園スポーツエリアと矢部川が融合した河川敷利用）、B. 船小屋中流地区（筑後広域公園と矢部川が融合したネットワークルート）、C. 船小屋上流地区（船小屋地区の水辺の賑わいの復活および新たな賑わいと連携）を抽出し、比較した。



矢部川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価

比較案		A. 船小屋下流地区 (矢部川13 k 250～13 k 700)	B. 船小屋中流地区 (矢部川13 k 750～14 k 450)	C. 船小屋上流地区 (矢部川14 k 450～15 k 800)
対象地区の特性		・観光の中心地である船小屋温泉大橋から、約1.9km。 ・筑後広域公園スポーツエリアと隣接しており、右岸堤防散策路はマラソン大会等に利用されている。 ・松原堰の湛水域にあたり、水面利用は限定される。 ・JR九州新幹線・鹿児島本線 筑後船小屋駅から、約0.6km。	・船小屋温泉大橋から、約1.2km。 ・筑後船小屋駅および筑後広域公園（年間約15万人利用）と隣接しており、公園利用者の矢部川への流入が期待される。 ・川裏の坂路・堤防階段の整備に伴って、福岡県が整備する筑後広域公園の整備計画を変更する必要がある。 ・松原堰の湛水域にあたり、水面利用は限定される。 ・JR九州新幹線・鹿児島本線 筑後船小屋駅から、約0.5km。	・船小屋温泉大橋から、約0.0km。 ・船小屋温泉、長田鉱泉場、中ノ島公園、筑後広域公園、川の駅船小屋恋ばたる等、多くの主要施設と隣接しており、これらの施設利用者の河川利用が期待される。 ・中ノ島公園はかつては多くの水浴客で賑わっていた。 ・JR九州新幹線・鹿児島本線 筑後船小屋駅から、約1.2km。
	整備内容	・案内板 ・高水敷整正 ・船着場 ・階段 ・管理用通路	・案内板 ・高水敷整正 ・船着場 ・親水護岸 ・坂路 ・階段 ・管理用通路	・案内板 ・ガタガタ橋の復元 ・高水敷整正 ・親水護岸 ・坂路 ・階段 ・緩傾斜堤防 ・管理用通路
評価軸	アクセス性	・筑後船小屋駅（JR・新幹線）から近い位置にあるが、筑後広域公園は歩行者専用の導線のみとなり、筑後広域公園からのアクセスは限定的となる。	・筑後船小屋駅（JR・新幹線）からもっとも近い位置にあるが、整備箇所を含め駅から矢部川への導線は少なく限定的である。 ・筑後広域公園のサブエントランスからはアクセスは良い。	・中ノ島公園・筑後広域公園や物販施設（恋ばたる）等が近接した位置にあり、矢部川への近づきやすさが改善されることで、観光施設と連携した観光客の利便性が高まる。 ・筑後広域公園のサブエントランスからはアクセスは良い。
	観光機能	・筑後広域公園スポーツエリアと融合することで、マラソン大会等のスポーツ振興に寄与することができる。またトイレや休憩施設等を利用でき、長時間の滞在が可能。 ・スポーツエリアとの融合するための導線は限定的で、利便性は良好とは言えない。 ・観光の中心である「船小屋温泉大橋」まで徒歩で30分	・福岡県により堤防上に新たに植樹された桜にアクセスしやすくなる等、花見や散策、マラソン等の利用性が高まる。またトイレや休憩施設等を利用でき、長時間の滞在が可能。 ・広範囲な筑後広域公園と融合するための導線は整備箇所を含め限定的で、利便性は良好とは言えない。 ・観光の中心である「船小屋温泉大橋」まで徒歩で20分。	・河川区域と物販施設（恋ばたる）や温泉施設等との導線が改善されることにより、観光客の利便性が高まる。またトイレや休憩施設等を利用でき、長時間の滞在が可能。 ・中ノ島公園のかつての賑わい復活により、隣接する温泉施設や物販施設、筑後広域公園の活性化に寄与する。 ・観光の中心である「船小屋温泉大橋」の近傍で観光客の利便性が高い。
	実現性・即効性	・福岡県や筑後市・みやま市等他事業者との調整は必要無い。 ・整備による利用形態は限定的であるため即効性は低い。	・堤防の一部を占用する福岡県との調整が必要となる。 ・整備による利用形態は限定的であるため即効性は低い。	・福岡県や筑後市・みやま市等他事業者との調整は必要無い。 ・整備により水浴場や中ノ島公園への魅力施設にアクセスしやすくなり即効性が高い。
	経済性（コスト）	・船小屋地区の下流地区のみの集中的な整備である。 完成までに要する費用 約8.2億円 維持管理に要する費用 約3.6億円（50年間）	・船小屋地区の広域にわたる面的な整備である。 完成までに要する費用 約8.9億円 維持管理に要する費用 約4.0億円（50年間）	・船小屋地区の中心部に絞った集中的な整備である。 完成までに要する費用 約7.9億円 維持管理に要する費用 約3.5億円（50年間）
	持続性	・適切な維持管理により持続可能	・適切な維持管理により持続可能	・適切な維持管理により持続可能
地域社会への影響	柔軟性	・高水敷は現在未利用地であるため計画の柔軟性は高い。	・堤防の一部は県と詳細な調整が必要があり、柔軟性に劣る。	・矢部川放水路は未利用地であるうえ、復元するガタガタ橋は地元自治体が主体となり進めるため柔軟性は高い。
	環境・景観への影響	・地域の構想への貢献や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献度はC案より劣る。 ・観光やスポーツ利用を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 ・施工中の工事車両の導線は確保されており、工事による周辺地域への影響が想定されるものの影響範囲は限定的である。	・地域の構想への貢献や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献度はC案より劣る。 ・観光や花見等を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 ・施工中の工事車両の導線は確保されており、工事による周辺地域への影響が想定されるものの影響範囲は限定的である。	・地元が推進する「中ノ島公園の賑わい復活」と連携した一体的な整備により、地域の構想の実現に貢献できる。 ・水辺が賑わい、地域活性化が図られる。 ・観光や水浴を目的とした放水路内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 ・施工中の工事車両の導線は確保されており、工事による周辺地域への影響が想定されるものの影響範囲は限定的である。
総合評価		△	△	○

- ・比較3案に対して、アクセス性、観光機能など8つの評価軸について評価を実施した。
- ・総合評価において、地域の観光振興に向けた取り組みや地元住民の要望に沿った最も妥当と考えられる案は、C.「船小屋上流地区」とであると評価。

5. 対応方針(原案)

(1)福岡県の意見

本県におきましても、対応方針(原案)のとおり、船小屋地区のかわとまちが融合した環境整備に当たっては、観光機能、経済性、地域社会への影響、並びに筑後広域公園の利用計画等のそれぞれの面から、「C)上流案:船小屋地区の水辺の賑わいの復活、新たな賑わいとの連携」が有利であり、これを中心に据えた整備を行うことは妥当と考えられます。

なお、計画的かつ効率的な整備に努め、県、地元自治体や住民との連携・合意形成を図りながら、事業を実施するようお願いいたします。

(2)対応方針(原案)

・比較した3案のうち、船小屋地区のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から、「C)上流案:船小屋地区の水辺の賑わいの復活、新たな賑わいとの連携」の整備が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないため、船小屋地区の水辺の賑わいの復活、新たな賑わいとの連携を中心に据えた整備を行うことが妥当と考えられる。